

古野清人 ふるの せいじん 宗教人類學者、文藝博士。明治二十二年十月六日福岡縣生れ、昭和五十四年二月一日没（八九一―一九七九）。第二高等學校を經て、大正十五年東京帝國大學文學部宗教學科卒業。姉崎正治の師事して宗教社會學と專攻。帝國學士院事務廳託、文部省民族研究所所員を經て天理大學專門學校校長となる。戦後は九州大學、北九州大學、東京都女子大學、獨協大學、駒澤大學等の教授歴任。昭和五十年に『キリシタニズムの比較研究』（昭和四十八年刊）により日本學士院賞受賞。日本社會學會會長、日本宗教學會會長を務めた。日本學士院會員。右書きを含む『古野清人著作集』全八卷（昭和四十七―四十九年刊）がある。

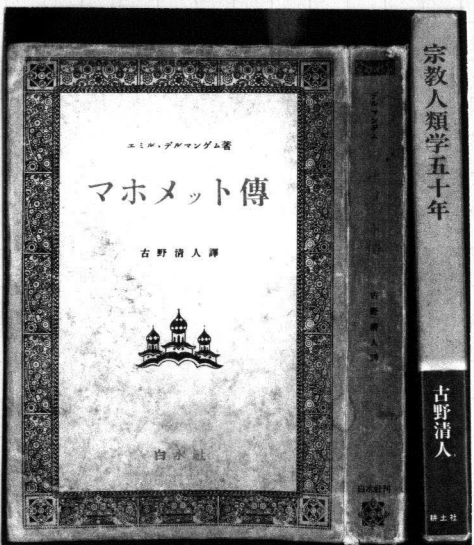
譯書に、エミル・デュラング著『マホメット傳』（昭和十五年十一月二十一日白水社）、モオリス・パレオログ著『犧牲の艦隊』（昭和十六年五月二十一日白水社）、デュルケム著『宗教生活の原初形態』全二冊（上巻・昭和十六年七月二十六日、下巻・十七年一月二十五日岩波書店「岩波文庫」）等。著書に『原始文化の探求』（昭和十七年六月十五日白水社）『白水社科學選書』）、『大東亞の宗教文化』（昭和十八年十一月二十日文部省教育司宗務課編、印刷局「宗教文化叢書」）、『原始宗教』（昭和二十年



九年十一月二十

五日角川書店

『角川新書』）、



『宗教人類學五十年』（昭和五十

五年五月十日耕土社（等）。